

高倉久田家は、初代久田宗栄（一五五九～一六二四）から現在十三代続く茶家であります。千利休を始祖とする三千家の中で、とりわけ不審菴表千家とは深い関係にあります。二代宗利が、元伯宗旦の息女くれを妻として迎え、以後、表千家十四代の内、四名（五代随流斎宗佐、六代覚々斎宗左、九代了々斎宗左、十代吸江斎宗左）を久田家からの縁を得、一方、表千家からも二名（十代玄乗斎、十一代無適斎）が久田家を継いでいます。

まさに日本茶道の正統である表千家の歴史の中で、その伝統を側面より維持してきたといっても過言ではありません。

三代宗全（一六四七～一七〇七）による二畳中板の茶室半床庵は、不審菴を母体として考案されたものではありませんが、茶室における千家の好みに新しい影響を与えたといわれています。茶室研究において極めて貴重な建造物であります。

こうした茶室や附属建造物はもとより、高倉久田家伝来の遺品、茶道具、文書類の保全ならびにその精神の継承は、我国が世界に誇れる日本の伝統文化の維持、発信になくてはならないものであります。

しかし、こうした文物は一個人のものではなく、国法の指導の下で管理運営されるべきであり、広く文化遺産として後世に伝えてゆくべきものと考えます。

また、身近なものとしての茶道の普及啓蒙の一助として活用し、ひいては茶の湯を生み育てた京都に今なお連綿として伝統を守り続けてきた家元制の発展に貢献することを願うものであります。

ここに一般財団法人半床庵文化財団を設立し、右目的に資せようとするものであります。